

表紙・裏表紙の写真の説明

表紙

撮影地：菅原神社（新潟市中央区学校町）

撮影日：2009年3月

使用機材：OLYMPUS E-420/ZUIKO DIGITAL25mm F2.8/絞り優先オート（絞り：F4.0・露出補正：+1.0EV）/記録画素数：3648×2736・JPEG/ISO：200/ホワイトバランス：オート

裏表紙

撮影地：関屋分水記念公園展望台（新潟市）

撮影日：2009年2月

使用機材：OLYMPUS E-410/LEICA D VARIO-ELMAR14-150mm F3.5-5.6 ASPH XSM MEGA O.I.S./プログラムオート/記録画素数：3648×2736・JPEG/ISO：200/ホワイトバランス：晴天

コメント：35mm版フィルム一眼レフカメラが普及していた頃には、画面サイズの対角線長に近い、焦点距離50mm前後の単焦点レンズが標準とされていました。一眼レフもデジタルが主体となった現在では、ズームレンズが標準的に利用され、以前には考えられなかった高倍率のものも普通に使われるようになってきています。そのような状況では、50mm前後の単焦点レンズはむしろ特殊なレンズとして、ズームにはない開放絞り値の明るさや小型軽量を活かす方向で使われることになりつつあるようです。今回、まだ寒さの残る新潟市内の早春を題材として、35mm版に換算して50mm程度の単焦点レンズを表紙に、28～300mm程度の高倍率ズームを裏表紙に使ってみました。

本誌中の写真の使用機材

ボディ：OLYMPUS E-3・E-410・E-420、PENTAX K-m、SONY α200、Nikon D60

レンズ：ZUIKO DIGITAL ED12-60mm F2.8-4.0 SWD、ZUIKO DIGITAL ED50-200mm F2.8-3.5 SWD、ZUIKO DIGITAL ED9-18mm F4.0-5.6、LEICA D VARIO-ELMAR14-150mm F3.5-5.6 ASPH XSM MEGA O.I.S.、smc PENTAX-DA35mm F2.8 Macro Limited、SIGMA24mm F1.8 EX DG ASPHERICAL MACRO、TAMRON SP90mm F2.8 MACRO 1:1 (72B)、AF-S DX Zoom-Nikkor ED18-70mm F3.5-4.5G (IF)

撮影者：林 孝文

